

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501657
法人名	有限会社 ふるかね屋
事業所名	グループホーム おたっしや長屋
所在地 (電話番号)	津市野田165 (電話) 059-239-1977
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 7 月 9 日(水)

【情報提供票より】 (H20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

敷金	60,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,400円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83.1 歳	最低 77 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	河村クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から3年が経ち、管理者・職員の日々の努力により、近隣住民との垣根がすっかり取り払われているという印象を強くする事業所である。管理者の、何事も「ほっとけない」「あきらめない」という熱意は多方面にわたって発揮され、事業所運営にも活かされている。人と人との繋がりを大切にする姿勢は職員にも受け継がれ、今後も多くの人たちによって「長屋」ににぎわいと活気がもたらされていくのであらうと思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>大きな課題となっていた運営推進会議の開催が2月に実施されている。自治会関係者から自治会との具体的な関わりの方法が提案されるなど、課題となっていた他の事項の改善にも繋がる話し合いがもたれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は提出間際に作成しており、事前に職員の意見を聞き取れていないが、作成したものは供覧に付し意見を求めている。外部評価と併せて再検討し、運営に反映していきたいと考えている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会関係者からは、事業所と地域が関わっていくことは地域の高齢者にとっても良いことであると、今後の協力が約束され、盆踊りの参加など具体的な提案がされている。市の担当者からは確定申告等に関連して利用者受益になるサービスの説明があり、同業の運営者と共に今後詳しく調べ、家族に知らせる運びとなっている。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>目安箱を置いているが利用されたことはない。日頃のコミュニケーションを大切に何でも話し合える雰囲気作りに努めており、苦情等あれば真摯に受け止めていきたいとの姿勢をとっている。運営推進会議にも家族に参加してもらうことで運営に反映させていきたいと考えている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣住民とは日常のお付き合いがあり野菜をもらったりしている。自治会の草取りには職員が出向くがそこで介護の相談を受けることもある。また、隣の独居高齢者宅との間に通路を作り自由に事業所に入出してもらい畑の手入れをしてもらったり、困りごとの相談にのったりしている。</p>
重点項目 ④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を基に、利用者がその人の「今」を、「地域との共生」を図りながら「過ごしきる」ことが出来るよう、「ありがとうを合言葉に」として支援することに重点を置いた新しい理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者職員共に、新しい理念は今までの実践から練り上げられたものであり、日々のケアに反映されているとの自負を持っている。職員間でケアの方法に違いがある場合は意見を率直に出し合うようにしている。結論は出なくとも、話し合いを重ねることが理念に近づくことであると管理者は考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	野菜をもらったり、隣の独居高齢者宅との間に通路をつけて自由に行き来してもらい、畑の世話をしてもらったり困りごとの相談に乗ったりするなど、近隣住民との関係は良好である。運営推進会議では自治会や老人会等との交流も話題になり、今夏の盆踊りへの参加が予定されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価は自己評価と共に事務所の目の届くところに常に置かれており、会議でも話し合いが持たれている。運営推進会議を開催することで、地域との関わりが具体的な形で実現する運びともなっており、一つの取り組みが別の課題改善への足がかりにもなっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に初回の会議が開催されている。家族・自治会関係者・他事業所代表者・市担当者が参加し、外部評価の説明や地域との関わりを深めるための具体的な方法、確定申告関連の情報等さまざまなことが話し合われている。管理者は密度の濃い話し合いが持たれたことで今後の開催に向けても意欲的に取り組んでいきたいと考えている。	○	会議の実施により自治会関係者の理解が深まり、今後の協力が約束されたり、市の担当者からは利用者には有益な情報が提供される等、有意義な話し合いが持たれている。次回は7月に予定されているとのことであるが、その後も是非継続して開催されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問い合わせに出向く他、共用型デイサービスの開設の折には担当者が事業所を訪れて相談にもっている。管理者は「まちづくり市民委員会」の委員として市から委任を受けており、高齢者の暮らしに関わることも含め市との意見交換の機会も多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の頻度は高く、ほとんどの家族には訪問時に様子を伝えている。遠方に住む家族等には手紙を出したり、インターネットを利用して利用者の今の様子を映像等で知らせたりしている。預かり金については個別の帳面に記録し、残金が少なくなった頃収支の確認をしてもらった上、入金をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を置いているが利用されたことはない。家族とは気軽に意見を出してもらえるような雰囲気作りに努め、直接聞き取り要望に応えるように努めている。運営推進会議には家族も参加してもらい、意見を出してもらえる機会も作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ2年ほど退職者はいなかったが、最近2名が退職している。新しい職員との引き継ぎのために5日間ほど重ねて勤務する時間を取ったりして、利用者へのダメージの軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を掲示し、職員の希望を基に管理者がキャリア等考慮した上で参加を決めている。研修によっては勤務に位置付けたり、資格取得のための研修には勤務を調整するなど出来る限りの支援をしている。研修後は報告書を作成し、回覧するなどして伝達も行っている。事業所内では看護師から医療知識や手当の方法等を教わる機会も多い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、管理者は役員でもあるため、同業者との交流や情報交換の機会が多い。管理者は10月の大会後は若い職員の参加も勧めていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少なくとも3日間の体験利用を経て、利用者・家族だけでなく、事業所側も納得した上で利用を開始してもらっている。家族にも泊まってもらうなどし、利用者の納得を得るのに9日間を要したケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	仲良く何でも話し合える関係づくりを基本として、話しかけ・聞き上手になることを心がけている。職員は、外出先から利用者が「ただいま」と帰って来られると、家族が帰ってきたようで嬉しいと感じたり、物を大切にするなど、経験の豊富な利用者から学ぶことは多いと感じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で上手く表現できる利用者も少なくなっており、日常のちょっとした言葉やしぐさなどをそのまま細かく記録し、思いや希望の把握に努めている。それでも困難な場合は自分ならどうしてほしいと考えてケアに当たっているが、介護者本位にならないよう注意を払っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始後1ヶ月は様子を見た上で、家族等からの情報やアセスメントシートを参考にして担当者が計画の原案を作成し、回覧→会議での検討→ケアマネジャーと家族の話し合いを経て最終的に仕上げていく。観察期間は情報にとらわれるのではなく、新しい試みにもチャレンジし、利用者の今の姿を把握するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は各自のファイルに綴じ、毎日の記録の際にも目が通せるようになっている。担当者は日々の記録を参考にして変更が必要な都度赤字で暫定的に書き込み、3ヶ月毎に会議で話し合った上、新しい介護計画を作成している。急激な変化があれば随時見直しもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や花見・イチゴ狩り・ほたる狩り・七夕流しなど四季折々の外出以外に、遠方への里帰り、旅行、お墓参り等、できる限りの支援をしている。制度的には4月より共用型通所介護サービスを始め、地域から2名の方に利用してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるもののかかりつけ医は任意であり、必要な場合は受診の支援もしている。協力医の往診は毎週あり、連絡帳を利用して利用者の様子を詳しく伝える工夫をしている。また看護師を職員として配置することで医療連携体制を整え、夜間の急変時や終末期にも対応できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化・終末期ケア対応指針」を作成し、本人・家族が望む場所で最後まで暮らしていけるような支援を約束している。家族からは「医療対応確認票」にて終末期の対応について意向を聞き取っているが、状況の変化の都度改めて確認していきたいと考えている。併せて職員の終末期ケア教育にも力を入れ、事業所が一丸となって取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等は事務室に保管し適切に管理されている。また、排泄ケアの折には自室か少なくとも洗面所まで誘導して対応する等、利用者のプライドを傷つけないよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるものの、食事・入浴・睡眠においても無理強いすることなく自由にしてもらっている。夜中に目が覚めた利用者に対しても職員は一緒にお茶を飲んだり話をしたりして、利用者のその時の思いに添った支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食にパン食のメニューを入れるなどバラエティーに富んだ食事が提供されている。畑で採れた野菜も今の時期は毎日のように食卓にあがり、きゅうりのスライスなど利用者も準備を手伝いながら食事を楽しんでいる。食器戸棚にはさまざまな陶器の食器が用意されており、食器に見合った献立を工夫することもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼夜を問わず希望があればいつでも入浴できるようになっている。生活習慣から就寝前に入浴を希望される方もおり、対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の習字作品を外部団体の催す作品展に出品したりしているが、全体的に利用者のできる力や意欲が低下してきている。喫茶店やショッピングなど出かける機会は多く、歌を歌う利用者が居れば管理者が楽器で合わせるなどして一緒に楽しんでいる。	○	今後も利用者の意欲やできる力の低下は進んでいくと思われるが、利用者の「今」の姿に再度目を当て、自分で出来ることの幅が広がり(あるいは深まり)、利用者に自信を持って「今」を生きていただけるような支援のあり方を探っていただきたい。管理者の「あきらめない」という言葉に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、玄関先にイスを出して草取りや近隣の住民との会話を楽しんだりしている。買い物や喫茶店などには随時出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを当然のこととし、玄関・フロア・フェンスなどどこからでも自由に外に出られるようになっている。夜間でもかけないこともあるが、目を離してはいけない利用者は常に意識して職員は動いている。また、ヒヤリハットの状況を細かく記録・回覧し事故の防止に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施し、一回は消防署の指導を受けている。事業所と管理者宅には水を備蓄し、テントの供えもある。自治会からの依頼で、一時避難場所として駐車場を提供することにもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	知り合いの栄養士に、献立に基づいて定期的にカロリー計算をしてもらう等の指導を受けている。水分は一日1500mlを目安とし、コーヒータイムなどを設け楽しんでもらっている。また、食の安全や薬に頼らずに排便を促すための食の改善についても取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物がコの字になっており、採光・風通しに配慮されている。近隣の住民が玄関先や庭・畑の手入れをしており、季節の野菜や花が植えられ、利用者や訪問者の目を和ませている。台所・食堂はどこにでもある普通の家という雰囲気、食後も場を離れず食堂で談笑する利用者の姿がみられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所とトイレが造り付けとなっているが、家具類はすべて利用者の持込となっている。木製ベッドや介護用ベッドなど好みや状態に見合ったものが置かれ、食後に自室で寛がれる利用者もいた。また、家族を亡くした利用者の居室には仏壇の周りに写真や花が飾られ、亡き家族を偲んでおられる様子が伺われた。		